

分担金・拠出金の名称	初等教育関係(GPE)拠出金	評価	C
拠出先の国際機関名	教育のためのグローバル・パートナーシップ(GPE)		
国際機関の概要	・ミレニアム開発目標ゴール(MDGs)2及び万人のための教育(EFA)にある「初等教育の完全普及」達成のため、2002年に世界銀行の主導で設立された。 ・MDGsゴール2及びEFAの達成のため、適切な教育セクター計画を策定した低所得国に対し、ドナーの拠出金により運営されるGPE基金を通じて、資金・能力構築・データ整備・政策策定の4つのギャップを埋めるための支援を実施。		
拠出により我が国が期待する成果目標及び活動指標		達成状況	
1. (1) 成果目標: GPEへの拠出を通じて、我が国の重要外交開発課題の遂行を促進し、我が国実施事業との相互補完性を高める 活動指標: 我が国の開発課題の中でも優先度が高い基礎教育分野へのGPEを通じた支援の実施		・我が国は主要国の中でも、二国間支援における教育分野への支援に力を入れている。二国間支援に加え、多国間(マルチ)での唯一の教育支援パートナーシップであるGPEへの拠出を通じて、二国間支援では対応が困難な紛争地域での支援や、他のドナー、民間セクター及び市民社会と連携した事業実施を支援している。 ・GPEは2016年～2020年までの戦略計画を策定中であるが、新戦略策定にあたり、我が国が重視する女子教育支援や、ポスト2015年開発アジェンダとの整合性がとれた戦略となるよう、理事会等の場で働きかけを行っている。	
(2) 成果目標: 機関の意志決定における我が国のプレゼンス強化を通じ、GPEによる途上国の基礎教育分野への支援方針策定に係る議論に我が国意向を反映 活動指標: GPEの意思決定機関である理事での議席の確保		我が国は、米国及びロシアと一つのドナーグループを形成している。各ドナーグループには、理事会での発言権を有する理事(1議席)、理事代理(1議席)が割り当てられており、GPEに加盟後、常にどちらかの議席を確保し、GPEの最高意思決定機関である理事会において、同じドナーグループに属する米国及びロシアと意見調整を行った上で、我が国の意見が最大限反映されるよう、理事会での対応にあたっている。	
(3) 成果目標: 効率的な組織・事業マネジメントの実現 活動指標: 組織運営改善措置及び新しいファンディングモデルの導入		①組織運営改善措置 新政策策定にあたり、臨時的に外部から専門家を登用したり、事業実施のフォローアップ強化の観点から、他部門の人員を国別支援担当に当たりするなど、理事会の承認を得た上で、ニーズに合わせて柔軟な組織運営改善措置をとっている。 ②新しいファンディングモデルの導入 支援対象国から事業申請があった際、従前は国毎に算出された割当額に基づき、基金から拠出されていたが、2015年より、割当て額の7割は申請基準を満たすことで拠出されるが、残る3割は、GPEが重視する衡平性、効率性、学びの質につき、それぞれGPEの基準を満たすことで拠出されるインセンティブ制度を導入し、効果的な事業実施に努めている。	
(4) 成果目標: 我が国人材の知見、専門性を通じた教育支援への貢献 活動指標: 邦人職員の増強。		GPEの事務局の職員数は60名で、うち邦人職員は1名(2015年6月時点)。邦人職員はその知見を活かして南アジア及び東南アジア地域の支援対象国の支援担当として活動している。	
2. PDCAサイクルの確保		GPEにおいては、以下のとおりPDCAを確保。 ①計画段階: 理事会にて、GPE全体の予算審議・承認を行っている他、支援対象国から申請があった案件も全て理事会で審査し、承認作業を行っている。②実施段階: 支援対象国にて事業を実施する際は、世銀・ユニセフ等が事業の管理機関となり、支援対象国が透明性を持って円滑に事業実施できるよう支援している。③評価: GPE事務局が事業報告書及び会計報告書を作成し、理事会の承認を得た上で、HPで公表している。④フォローアップ: 本年より事業評価体制を構築し、事業のフォローアップ及び成果の測定を行っていく予定。我が国は理事会へ出席し、各段階での確認を行っている。	
担当課・室名	国際協力局 地球規模課題総括課		